

項目		チェック	特記事項文例
1-1	麻痺	上肢「あり」	【右・左】上肢は、【横・前】に＊肩の高さまで【挙上・保持】できない。 ※仰臥位で確認した場合→前方頭上に【挙上・保持】できない。
1-1	麻痺	下肢「あり」	【右・左】下肢は、【床と水平の高さ・（1-2膝に伸展制限がある場合）膝の可動域最大】まで【挙上・保持】できない。
1-2	拘縮	肩「あり」	【右・左】肩は、【前・横】に＊肩の高さまであげられない。 ※仰臥位で確認した場合【左右の肩を結んだ高さまで・前方】にあげられない。
1-2	拘縮	股「あり」	屈曲⇒【右・左】股関節は、90度に屈曲できない。 外転⇒両側をあわせても25cm外転できない。
1-2	拘縮	膝「あり」	【右・左】膝は、【90度に屈曲・まっすぐ伸展】できない。
1-3	寝返り	つかまれば可	【ベッド柵・布団の端 等】につかまり、できる。
1-3	寝返り	つかまれば可	【布団・ベッド面 等】に【手・肘 等】に加重して、できる。
1-3	寝返り	できない	何かにつかまってもできない。介助者が定時で体位交換している。
1-3	寝返り	できない	円背で仰向けになれず、一度起き上がって寝返りをする。 側臥位からうつ伏せにもなれない。
1-4	起き上がり	つかまれば可	【ベッド柵・周りの家具 等】につかまり、できる。
1-4	起き上がり	つかまれば可	【布団・ベッド面 等】に【手・肘 等】に加重して、できる。
1-4	起き上がり	できない	ギャッジアップ機能を使用しないとできない。
1-4	起き上がり	できない	つかまってもできないので介助者が起こす。
1-5	座位保持	自分で支えれば可	【テーブル・柵・座面 等】に手をつき支えればできる。
1-5	座位保持	支え必要	【車椅子の背もたれ・〇〇度ギャッジアップしたベッド 等】にもたれればできる。
1-5	座位保持	できない	背もたれがあっても10分はできず、途中で臥床する。
1-5	座位保持	できない	おおむね1か月間、水平な体位しかとっていない。
1-6	立位保持	支え必要	【壁・手すり 等】につかまってもできる。
1-6	立位保持	できない	つかまっても、10秒は介助者が支えないとできない。
1-6	立位保持	できない	寝たきりで、どのような状況でもできない。
1-7	歩行	つかまれば可	【杖・歩行器 等】につかまりできる。
1-7	歩行	つかまれば可	介助者が【脇を支えて・手引きし 等】できる。
1-7	歩行	できない	途中で休み、5m継続しては歩けない。
1-7	歩行	できない	リハビリでのみ5m歩くが、日常では歩行しておらずできない。
1-7	歩行	できない	つかまったり、支えても歩行は不可能で車椅子を使用している。
1-8	立ち上がり	つかまれば可	【ベッド柵・手すり 等】につかまりできる。
1-8	立ち上がり	できない	介助者が引き上げないとできない。
1-8	立ち上がり	できない	寝たきりで、いかなる状況でもできない。
1-9	片足立位	支え必要	【ベッド柵・手すり 等】につかまりできる。
1-9	片足立位	できない	つかまってもできず、日頃から片足を上げる動作時は、介護者が支えている。
1-9	片足立位	できない	寝たきりで、いかなる状況でもできない。
1-10	洗身	一部介助	認知症で洗いが分からないので、介助者が浴室内で声かけ、指示している。
1-10	洗身	一部介助	陰部等手の届くところは本人が洗う。背中や足先は手が届かず洗えないので、介助者が洗う。
1-10	洗身	一部介助	適切介助：介助なく洗っているが、腕があがらず背中では洗えていない。背部の洗身は介助が適切。

項目		チェック	特記事項文例
1-10	洗身	全介助	本人が手の届く前の部分は洗うが不十分なため、介助者が全て洗いなおしている。
1-10	洗身	全介助	本人は洗いがわからず、介助者が全身を洗う。
1-10	洗身	全介助	適切介助：介助には拒否があり一人で行っているが、洗身できておらず身体に汚れ、臭いもあり不適切。指示しても本人はできないと思われ、全介助で行うのが適切。
1-10	洗身	行っていない	洗身は行っておらず、介助者が清拭している。
1-11	爪切り	一部介助	手は自分で切るが、足は手が届かないので、介助者が切る。
1-11	爪切り	一部介助	適切介助：自分で行っているが、【足先は手が届かず・麻痺側は爪切が使えず等】【切れない・深爪になってしまう等】ので【足・手・切れてない部分等】の介助が適切。
1-11	爪切り	全介助	手足とも介助者が切る。
1-12	視力	普通	【裸眼で・〇〇を使用し】新聞、雑誌等の小文字が見える。
1-12	視力	1 mで見える	小文字は見えないが、1 m離れた視力表の図が見える。
1-12	視力	目の前が見える	目の前の視力表の図が見える。
1-12	視力	ほとんど見えない	目の前の視力表の図も見えない。（明暗程度しかわからない等）
1-12	視力	判断不能	【意識障害・重度の認知症等】で質問に反応がなく、見えているのか判断できない。
1-13	聴力	やっと聞こえる	普通の声だと聞き間違える。大きめの声で聞こえる。
1-13	聴力	大声聞こえる	耳元で大声で聞こえる。
1-13	聴力	ほとんど聞こえない	大声でも聞こえないため筆談をしている。
1-13	聴力	判断不能	【意識障害・重度の認知症等】で声かけに反応がなく、聞こえているのか判断できない。
2-1	移乗（移乗あり）	介助されていない	【まわりにつかまり、ゆっくりと等】介助なく行う。
2-1	移乗（移乗あり）	見守り等	【下肢筋力低下あり、ふらついて転倒しやすい・認知症のため、位置が十分理解できず、転倒しそうになる等】ため、常に介助者がすぐ手を出せる位置で見守る。
2-1	移乗（移乗あり）	見守り等	適切介助：介護者不在のため、介助なく行っているが、【この1週間で〇回、ふらついて転倒した等】ため、常に介護者がすぐ手を出せる位置での見守る介助が適切。
2-1	移乗（移乗あり）	一部介助	【車椅子⇄ベッド・ポータブルトイレ等】への移乗は、介助者が本人の【腰・体幹等】を支えて行っている。
2-1	移乗（移乗あり）	一部介助	適切介助：介助者不在のため、介助なく行っているが、【下肢の筋力低下しており、この1週間で転倒が〇回はあった。デイサービスでは、職員がズボンの後ろをつかんで引き上げ、腰を支えて移乗しており、同様の】介助が適切。
2-1	移乗（移乗あり）	全介助	介助者が抱えて移乗を行う。
2-1	移乗（移乗あり）	全介助	入院中で寝たきり状態のため、シーツ交換や体位交換時、介護者2人で臀部を動かし、移乗を行っている。
2-1	移乗（移乗なし）	介助されていない	移乗は発生していない。想定すると、1群の身体機能の状況から、【介助は必要ない・つかまって自分でできる等】と判断した。
2-1	移乗（移乗なし）	見守り等	移乗は発生していない。想定すると、【下肢筋力の低下により・片麻痺があり、この1週間で〇回、ふらついて転倒したため等】、常に介助者がすぐ手を出せる位置で見守る介助が適切。

項目		チェック	特記事項文例
2-1	移乗（移乗なし）	見守り等	移乗は発生していない。想定すると、【認知機能の低下により、手引き歩行をしており等】、常に介助者がすぐに手を出せる位置で指示し、見守る介助が適切。
2-1	移乗（移乗なし）	一部介助	移乗は発生していない。想定すると、【下肢筋力低下のため・片麻痺があり・認知機能の低下あり等】、つかまって自分ではできず、臀部の横移動には腰を支える介助が適切。
2-1	移乗（移乗なし）	一部介助	移乗は発生していない。頻度は少ないが、【デイサービス・ショートステイ・通院時】は、【下肢筋力低下のため・認知機能の低下のため等】、腰を支える介助を行っているため、同様な介助が適切。
2-2	移動	介助されていない	【まわりにつかまり、ゆっくり等】介助なく行う。
2-2	移動	介助されていない	車椅子を自走し、介助なく移動する。
2-2	移動	見守り等	【麻痺があり、歩行が不安定なため等】介助者が付き添っている。
2-2	移動	見守り等	認知症で目的地がわからないため、介助者が声かけし誘導している。
2-2	移動	見守り等	適切介助：【独居等】のため介助なく移動しているが、【歩行が不安定で、壁にぶつかっている等】。すぐ手が出せる位置での見守りが適切。
2-2	移動	一部介助	【麻痺があり、歩行が不安定なため等】、介助者が【腰を支えて・手を引いて等】移動している。
2-2	移動	一部介助	車椅子を自走するが、【曲がり角や狭い所、段差等】は介助者が押す。
2-2	移動	一部介助	適切介助：【独居等】のため介助なく移動しているが、【歩行が不安定でこの一週間で○回転倒している。・移動に時間がかかり毎回トイレに間に合わない等】身体を支える介助が適切。
2-2	移動	全介助	【車椅子・ストレッチャー等】を介護者が押す。
2-3	えん下	見守り等	飲み込みが円滑ではない。
2-3	えん下	できない	飲み込みができず、【経管栄養・胃ろう等】で栄養摂取している。
2-4	食事摂取	見守り等	【目の前の物しか食べないので・目が見えないので等】、介護者が【皿の置き換え・声かけ】をしている。
2-4	食事摂取	一部介助	食卓で、おかずを細かくする介助をしている。
2-4	食事摂取	一部介助	自分で食べるが、【途中で手が止まるので等】、【半分くらいは・最後の数口等】は介助者が口に入れる介助をする。
2-4	食事摂取	一部介助	【目の前のものしか食べないので等】、介助者が少しずつおかずをご飯に乗せる介助をする。
2-4	食事摂取	一部介助	スプーンでうまくすくえないので、介助者がスプーンに食べ物を乗せる介助をする。
2-4	食事摂取	全介助	介助者が全て食べさせている。
2-4	食事摂取	全介助	経管栄養を介助者が行う。
2-5	排尿	介助されていない	【布下着にパット等】を使用。昼夜ともトイレで一連の行為を介助なく行う。【週○回程度、尿漏れがあるが、パット交換も自分で行う。等】
2-5	排尿	見守り等	尿は1日○回、便は○日に1回、トイレで排泄。【尿意があいまいなので、定時誘導される。・排泄の動作が分からないので、介助者が指示をしている。】

項目		チェック	特記事項文例
2-5	排尿	見守り等	紙パンツとパットでトイレ使用。尿は1日〇回で、ほぼ毎回尿漏れがあるが、自分からはパット交換をしないので、介助者が濡れの確認と、パット交換の声かけをしている。
2-5	排尿	見守り等	適切介助：パット使用しトイレで排泄。【独居 等】のため、介助なく排泄し、パット交換も行うが、尿意・便意があいまいで失禁が多い。定時誘導する「見守り」が適切。
2-5	排尿	見守り等	適切介助：【独居 等】のため1日〇回、トイレで一人で行うが、【下衣の引き上げが不十分・肛門の清拭が不十分で下着に便が付着している・水洗を忘れる 等】事が多い。声をかければ自分で行う事はできるので「見守り」が適切。
2-5	排尿	一部介助	日中はリハビリパンツとパットで尿は1日〇回、トイレ使用。【下衣の上げ下げ・陰部の清拭・水洗・失禁が多く1日〇回パット交換】を介助者がする。適切介助：【独居 等】のため一人でトイレに行くが、【下衣が上がりきっていない・下衣を下げるのに時間がかかり失禁する・失禁が多いがパットを交換しない・肛門の清拭を本人が行うが不十分で、下着に便が付着している・水洗を忘れる 等】事が多い。【手の力がなく 等】本人が行うのは困難なため、【下衣を上げる・下げる・パット交換・水洗・拭きなおし 等】の介助が適切。
2-5	排尿	全介助	介助者が定時にオムツ交換をする。
2-5	排尿	全介助	リハビリパンツとパットを使用しトイレに行くが、一連の行為は介助者がする。
2-5	排尿	全介助	バルーンカテーテルで、尿の廃棄は家族、カテーテル交換は看護師が行う。
2-5	排尿	全介助	ストマで、便の廃棄や交換は家族、訪問看護師が行う。
2-6	排便	介助されていない	【布下着にパット 等】を使用。昼夜ともトイレで一連の行為を介助なく行う。【週〇回程度、尿漏れがあるが、パット交換も自分で行う。 等】
2-6	排便	見守り等	尿は1日〇回、便は〇日に1回、トイレで排泄。【尿意があいまいなので、定時誘導される。・排泄の動作が分からないので、介助者が指示をしている。】
2-6	排便	見守り等	紙パンツとパットでトイレ使用。尿は1日〇回で、ほぼ毎回尿漏れがあるが、自分からはパット交換をしないので、介助者が濡れの確認と、パット交換の声かけをしている。
2-6	排便	見守り等	適切介助：パット使用しトイレで排泄。【独居 等】のため、介助なく排泄し、パット交換も行うが、尿意・便意があいまいで失禁が多い。定時誘導する「見守り」が適切。
2-6	排便	見守り等	適切介助：【独居 等】のため1日〇回、トイレで一人で行うが、【下衣の引き上げが不十分・肛門の清拭が不十分で下着に便が付着している・水洗を忘れる 等】事が多い。声をかければ自分で行う事はできるので「見守り」が適切。

項目		チェック	特記事項文例
2-6	排便	一部介助	○日に1回トイレ使用。【下衣の上げ下げ・陰部の清拭・水洗・失禁がすることが多くパット交換】を介助者がする。適切介助：【独居等】のため一人でトイレに行くが、【下衣が上がりきっていない・下衣を下げるのに時間がかかり失禁する・失禁が多いがパットを交換しない・肛門の清拭を本人がするが不十分で、下着に便が付着している・水洗を忘れる等】事が多い。【手の力がなく等】本人が行うのは困難なため、【下衣を上げる・下げる・パット交換・水洗・拭きなおし等】の介助が適切。
2-6	排便	全介助	介助者が定時でオムツ交換をする。
2-6	排便	全介助	リハパンとパットを使用しトイレに行くが、一連の行為は介助者がする。
2-6	排便	全介助	ストマで、便の廃棄や交換は家族、訪問看護師が行う。
2-7	口腔清潔	一部介助	自歯で、介助者が物品を準備し、自分で磨く。
2-7	口腔清潔	一部介助	認知症で行為がわからず自分では行えないので、介助者が指示しながら行う。
2-7	口腔清潔	一部介助	本人が磨くが、磨き残しを介助者が磨く。
2-7	口腔清潔	一部介助	義歯の着脱は本人がし、洗浄は介助者がする。
2-7	口腔清潔	全介助	歯はなく、義歯も使用しておらず、介助者が口腔内をガーゼで拭く。
2-7	口腔清潔	全介助	物品を準備し渡すと本人が歯を磨くが、磨けていないので、介助者が全面磨きなおす。介助者が水を口に含ませ、本人は吐き出すのみ。
2-8	洗顔	一部介助	介助者が蒸しタオルを準備し、本人が拭く。
2-8	洗顔	一部介助	認知症で行為がわからず自分では行えないので、介助者が指示しながら行う。
2-8	洗顔	一部介助	介助者が横について、タオルを渡している。
2-8	洗顔	全介助	介助者が蒸しタオルで拭く。
2-8	洗顔	全介助	毎朝自分では行っておらず、入浴時に介助者が洗う。
2-9	整髪	一部介助	介助者がブラシを渡し、自分でとかす。
2-9	整髪	一部介助	本人が手元にあるブラシでとかすが、後ろは手が届かないので、介助者がとかす。
2-9	整髪	全介助	介助者がとかす。
2-9	整髪	全介助	本人が手元にあるブラシでとかすが、きれいにできないので、介助者が全面的にとかしなおす。
2-9	整髪	全介助	代替評価：本人は髪が少ないので整髪はしない。入浴後、介助者が頭を拭く。
2-10	上衣の着脱	見守り等	認知症で着方がわからないので、介助者が付き添って指示しながら着替える。
2-10	上衣の着脱	見守り等	自分で着脱しているが、【ボタンの掛け違い、衣服がめくれており等】介助者が指示をして着なおしている。
2-10	上衣の着脱	一部介助	介助者が服を構えると、本人が【手・足】を入れる協力動作をする。
2-10	上衣の着脱	一部介助	介助者が袖・裾を通す部分を介助し、他は本人が行う。
2-10	上衣の着脱	一部介助	自分で着脱するが、きれいに着れていないので、介助者が【上着をひっぱる、上着をズボンに入れる、ズボンを引き上げる等】整えている。
2-10	上衣の着脱	全介助	本人は協力動作が行えず、介助者が着脱している。

項目		チェック	特記事項文例
2-11	ズボン、パンツの着脱	見守り等	認知症で着方がわからないので、介助者が付き添って指示しながら着替える。
2-11	ズボン、パンツの着脱	見守り等	自分で着脱しているが、【ボタンの掛け違い、衣服がめくれており等】介助者が指示をして着なおしている。
2-11	ズボン、パンツの着脱	一部介助	介助者が服を構えると、本人が【手・足】を入れる協力動作をする。
2-11	ズボン、パンツの着脱	一部介助	介助者が袖・裾を通す部分を介助し、他は本人が行う。
2-11	ズボン、パンツの着脱	一部介助	自分で着脱するが、きれいに着れていないので、介助者が【上着をひっぱる、上着をズボンに入れる、ズボンを引き上げる 等】整えている。
2-11	ズボン、パンツの着脱	全介助	本人は協力動作が行えず、介助者が着脱している。
2-12	外出頻度	全介助	1か月間の外出の内容【買い物・通院 等】と方法【家族等付き添い等】、回数を記載
3-1	意思の伝達	できる	認知症であるため、伝達内容の合理性はない事が多いが、常時、誰にでも伝えられる。
3-1	意思の伝達	できる	自発語はほとんどないが、問いかけをすると伝えられる。
3-1	意思の伝達	ときどきできる	内容や状況により、伝えられる時と伝えられない時がある。
3-1	意思の伝達	ほとんど不可	通常は伝えられないが、ある事柄や特定の人に対して、まれに伝えられる時がある。
3-1	意思の伝達	ほとんど不可	認知症で「痛い」「お腹が減った」等、限定された内容のみ伝達できる。
3-1	意思の伝達	できない	重度の認知症（又は意識障害等）により、【全く伝えられない。・伝達できるか判断できない。】
3-2	日課の理解	できる	調査時、日頃ともに起床、就寝、食事時間等のおおまかな日課を理解している。
3-2	日課の理解	できる	調査時回答できないが、日頃はおおまかな日課を理解していると立会い者から聞き取る。
3-2	日課の理解	できない	日課を理解できておらず、介助者の促しで生活している。
3-2	日課の理解	できない	調査時は回答できたが、日頃は理解できていないことが多いと立会い者から聞き取る。
3-3	生年月日をいう	できる	生年月日（数日の誤差）は正答、年齢は○才と2歳までの誤差で「できる」を選択。
3-3	生年月日をいう	できる	生年月日（数日の誤差）は正答、年齢は○才（差が2歳より大きい）と誤答。
3-3	生年月日をいう	できない	生年月日は【生年しか言えない・日にちが大きく違っている 等】、年齢も○才（差が2歳より大きい）と誤答。
3-3	生年月日をいう	できない	【「分からない」と回答する。・まったく回答できなかった。】
3-4	短期記憶	できる	調査直前の行動を回答できなかったが、日頃は覚えていると立会い者から聞き取る。
3-4	短期記憶	できる	調査直前の行動を回答できた。立会い者がいない為、3点テストを行い、残りの1点を回答できた。
3-4	短期記憶	できない	調査直前の行動を回答できなかった。日頃も直前のことを忘れると立会い者から聞き取る。
3-4	短期記憶	できない	調査直前の行動は回答できたが、日頃は直前のことを忘れることが多いと立会い者から聞き取る。

項目		チェック	特記事項文例
3-4	短期記憶	できない	調査直前の行動は回答するが、立会い者がなく、正誤の確認ができない。3点テストでは残りの1点を回答できない。
3-4	短期記憶	できない	【「分からない」と回答する。・まったく回答できなかった。】
3-5	自分の名前をいう	できる	【旧姓・姓のみ・名前のみ】の回答であった。
3-5	自分の名前をいう	できる	【失語症 等】で、【筆談で回答できた。・呼名にうなずきがあり「できる」と判断した。】
3-5	自分の名前をいう	できない	【「分からない」と回答する。・まったく回答できなかった。】
3-6	季節の理解	できる	調査時、回答できなかったが、日頃は理解できていると立会い者から聞き取る。
3-6	季節の理解	できない	○（違う季節）と回答した。日頃も季節の理解はできないと立会い者から聞き取る。
3-6	季節の理解	できない	調査時は回答できたが、日頃は理解できていないと立会い者から聞き取る。
3-6	季節の理解	できない	【「分からない」と回答する。・まったく回答できなかった。】
3-7	場所の理解	できる	調査時、回答できなかったが、日頃は理解していると立会い者から聞き取る。
3-7	場所の理解	できない	○（違う場所）と回答した。日頃も理解していないと立会い者から聞き取る。
3-7	場所の理解	できない	調査時は○と正しく回答できたが、日頃は分かっていることが多い。
3-7	場所の理解	できない	【「分からない」と回答する。・まったく回答できなかった。】
3-8	徘徊	ない	○か月前には【夕方になると廊下を歩き回る・ベッドで這い回る等】事があったが、【服薬をはじめ 等】この1ヶ月ではない。
3-8	徘徊	ない	○（時期）の入院中は【廊下に出てきてうろうろする 等】があったが、自宅に退院後は見られていない。
3-8	徘徊	ときどきある	目的もなく【家の中をうろうろ歩き回る、車椅子で動き回る、床やベッドの上で這い回る等】ことが、この1か月で1～3回あった。
3-8	徘徊	ある	目的もなく【家の中をうろうろ歩き回る、車椅子で動き回る、床やベッドの上で這い回る等】ことが、この1か月では週○回あった。
3-9	外出して戻れない	ない	【入院中に自分の病室から出て戻れないことがあったが、自宅に退院後は 等】その様な事はない。
3-9	外出して戻れない	ない	○か月前には【散歩に行つて帰宅できなくなり近所の人に連れて来てもらった 等】事が○回あったが、この1ヶ月ではない。
3-9	外出して戻れない	ときどきある	【買い物に行つて・自室から出て 等】一人で戻れなくなり【家族が探して連れ戻した・職員が自室に連れ戻す・警察に保護された】ことが、この1か月で1～3回あった。
3-9	外出して戻れない	ある	【買い物に行つて・自室から出て 等】一人で戻れなくなり【家族が探して連れ戻した・職員が自室に連れ戻す・警察に保護された】ことが、この1か月では週○回あった。
4-1	被害的	ない	【○○がない】と言うことは日常的にあるが、被害的には言わない。
4-1	被害的	ある	【娘が私のご飯を作ってくれない、食べさせてもらえない】と毎日のように言うため娘のストレスとなっている。

項目		チェック	特記事項文例
4-1	被害的	ある	食べ物に毒が入っていると言い、食事を拒否することが週〇回ある。
4-1	被害的	ある	週に〇回は【お金を盗られた】と落ち着かなくなるため、家族は一緒に探すようにしている。
4-2	作話	ない	【〇〇を娘に預けている】と言うが、そのような事実はなく本人が勘違いをしているとのこと。
4-2	作話	ときどきある	亡くなっている人物が訪ねて来た等事実と異なる話を月に〇回CMに言う。
4-2	作話	ときどきある	〇〇をしまいこんでいるのがわかると【〇〇を捨てていく人がいるの】といって取り繕うことが月に〇回ある。
4-2	作話	ある	家族が帰宅後【「〇〇さんがたずねてきた」「集金にきた」】など事実と異なることを毎日のように報告する。家族はそのたびに確認を行っており手間となっている。
4-2	作話	ある	【家事はすべて自分が行っている】など事実でないことを週に〇回は近所の人に言う。
4-2	作話	ある	【嫁はご飯を食べさせてくれない】と事実でないことを近所の人に毎日言う。
4-2	作話	ある	【長男が暴力をふるう】と事実でないことを別居の長女に電話することが週に〇回はある。
4-3	感情が不安定	ない	昔から涙もろく、昔の話をしているとすぐに泣いてしまうが、家族も慣れており軽くなだめる程度で特に対応はしていない。
4-3	情が不安定	ない	感情が不安定で、不定愁訴、不眠症のため薬を内服中。
4-3	情が不安定	ときどきある	知人が亡くなった等の悲しいことを聞くと不自然なほど泣き続け、なかなかおさまらなくなる（月に〇回程度）
4-3	情が不安定	ある	話題が家族のことになると急に泣きだし【「迷惑になるので死にたい」】と言い出し、毎日落ち着くまで職員がそばについている。
4-4	昼夜逆転	ない	夜間頻尿のため、夜中に〇回ほどは起きることがあるが、昼夜の生活が逆転しているわけではない。
4-4	昼夜逆転	ない	昼夜問わず傾眠、ウトウトしている。起こしてもなかなか起きない。 ※夜間行動が発生していない
4-4	昼夜逆転	ない	毎晩〇回ほど目が覚めるが、昼寝もせずにいる。
4-4	昼夜逆転	ときどきある	〇週間に〇回、受診に行った日は、夜間眠らず大声を出す。家族が手を握っていると安心する。
4-4	昼夜逆転	ある	夜中にタンスを開けて預金通帳を探し始める（週〇回）ため家族は本人が寝付くまで付き添っている。
4-4	昼夜逆転	ある	週に〇回、夜中に起きて雨戸を開け「早く起きろ」と家族を起こすので家族は夜中であることを説明して寝かせる介助をする。
4-5	同じ話をする	ない	家族の話では、昔から同じ話をするが多かったというが、場面や目的からみて不適当な行動ではない。
4-5	同じ話をする	ときどきある	納得ができるまで、くどくど何回でも聞くことが月に2, 3回ある。
4-5	同じ話をする	ある	〇分前に話したことを忘れ、何度も繰り返し話すことが毎日あり、家族はノイローゼ気味である。
4-6	大声を出す	ない	難聴のため、会話時に大きな声をだすのが習慣化している。
4-6	大声を出す	ときどきある	月に〇回大声で怒鳴るので家族は不快になる。

項目		チェック	特記事項文例
4-6	大声を出す	ある	本人の考え通りにならない時に、大声をだす。週に○回あるため介護者は本人をなだめている。
4-7	介護抵抗	ない	夜間尿失禁があるため、寝る前にトイレに行くように家族が声をかけるが、そのまま寝てしまい尿失禁が週に○回ある。
4-7	介護抵抗	ない	入浴に連れて行こうとするたびに嫌、入らないと言って拒否するが、職員はなだめながらお風呂に連れて行くが、いざ洗い出すとおとなしくなる。言葉による拒絶であり行動による抵抗とはなっていない。
4-7	介護抵抗	ときどきある	ベッドから車いすへの移乗時にベッドにしがみついて手を離さないことが月に○回ある。
4-7	介護抵抗	ある	意識障害があり意思の疎通はできないが、毎回オムツの交換時に反射的に陰部に手を持っていき介助の手間となっている。そのため、2人介助で対応している。
4-7	介護抵抗	ある	尿失禁が頻回にあり、職員が交換しようすると大声で怒鳴るため手が出せない状態となることがほぼ毎日ある。
4-8	落ち着きなし	ない	施設では毎日のように「家に帰りたい」と職員に話をするが、状態としては落ち着かないというほどではない。
4-8	落ち着きなし	ときどきある	家にいるのに家に帰ると言い張り、身のまわりの衣類をまとめてタンスを開けたり閉めたりして落ち着かなくなることが月に○回くらいあるため家族が説得するのに苦慮している。
4-8	落ち着きなし	ある	老人保健施設に入所中であるが、毎日のように「家に帰るので息子に電話をしてくれ」と言って落ち着かなくなる。
4-9	一人で出たがる	ない	外に出て行くと言ってきかず、日に何度も玄関に行くので、二重に鍵をかけて出られないようにしている。
4-9	一人で出たがる	ない	施設の出口を探し求めて終始ウロウロするため、エレベーター前に観葉植物を置き、出られないようにしている。
4-9	一人で出たがる	ときどきある	鍵をかけ忘れると一人で外に出て行ってしまふことが月に1回程度ある。介護者は耳が遠いので気づかず警察に保護される。
4-9	一人で出たがる	ある	毎日のように施設の入り口まで出て行き、タクシーを呼ぶように事務員に話しかける。居室に戻るまで5分程度は説明をしなければならず手間となっている。
4-10	収集癖	ない	昔からの性格や生活習慣等で、不要と思える箱や新聞紙を捨てないでとっているが、明らかに周囲の状況に合致しない行動ではない。
4-10	収集癖	ない	ゴミ置き場からいろんな物を持ち帰り、部屋は不要な物で一杯で足の踏み場もない状態となっている。最近は○ヶ月以上外出しておらずこれ以上は増えていない。
4-10	収集癖	ときどきある	同居家族の部屋に入り、衣類等を持ち出し、自分のタンスの中にしまふことが月に○回ある。
4-10	収集癖	ある	食事の時、スプーンや湯のみ等を毎回ポケットやズボンの中に入れてしまうので職員がその都度確認する。
4-11	物や衣類を壊す	ない	以前、ボタンの服の時はボタンをちぎり捨てたりしていた。ファスナーに変えたためちぎり捨てることはなくなった。
4-11	物や衣類を壊す	ときどきある	気に要らないことがあると周囲のものをとって投げることが月○回ほどあり、家族は、掃除等に手間を要している。
4-11	物や衣類を壊す	ときどきある	食事中にお椀を地面に叩きつけるような行動が月に○回みられる。樹脂製のため壊れることはないが、食べ物散乱しため掃除が手間になっている。

項目		チェック	特記事項文例
4-11	物や衣類を壊す	ある	着用している紙パンツを破ってしまうことが週に○回ある。
4-12	ひどい物忘れ	ない	財布を置いた場所等、ときどき忘れることもあるが、年相応の物忘れで生活に支障はない。
4-12	ひどい物忘れ	ない	日頃から数分前のことでもすぐ忘れてしまうが、特に手間はかかっていないと聞き取る。
4-12	ひどい物忘れ	ない	寝たきりで認知症もあるが、意思の疎通が全くできない。
4-12	ひどい物忘れ	ない	薬の飲み忘れが頻回にあったため、家族が準備して手渡すようになった。そのため薬を飲み忘れることはなくなった。
4-12	ひどい物忘れ	ない	電話の伝言をし忘れることが、月に○回程度あるが、単なる物忘れであるため「ない」を選択。
4-12	ひどい物忘れ	ない	食事をしたことは覚えていないが、しつこく食事を要求するといった行動はない。
4-12	ひどい物忘れ	ときどきある	月に○回家族のことを「知らない人だ」と言い出し「家に帰る」と言って家族を困らせることがあるので、自分の家であることを説明する手間を要する。
4-12	ひどい物忘れ	ときどきある	火を使わないように伝えているが、自分で調理できるとしており、ガスを付けっぱなしにし鍋を焦がすことが月に○回程度みられる。家族が気をつけているが、目を離したすきに火を使うことがある。
4-12	ひどい物忘れ	ある	【財布を置いた場所】がわからなくなり、毎日のように家族を巻き込んで探し回る。
4-12	ひどい物忘れ	ある	認知症で歯磨きや着脱など動作を忘れているため、行動すべてに常に介護者の声かけ、指示が必要で介護の手間となっている。
4-13	独り言、独り笑い	ない	家族の話では昔から独り言の癖があるとのこと。
4-13	独り言、独り笑い	ときどきある	本人には何か見えているのか、目を向けている方へ向かって「あっちへ行け」等と言っていることが月に○回ある。
4-13	独り言、独り笑い	ある	認知症で自分の世界でいつも何か話している。
4-14	自分勝手に行動する	ない	もともとの性格から自分勝手な行動が多い。
4-14	自分勝手に行動する	ときどきある	食事や入浴を嫌がり違うことをしようとするのが月に○回ある。
4-14	自分勝手に行動する	ある	入院中であるが、週に○回はチューブや点滴等の自己抜去がある。
4-14	自分勝手に行動する	ある	深夜遅くに「買い物に行くからついてこい」といって聞かなくなることが週に2, 3回ある。周囲にあいている店はないが、靴を履くまで納得しないことも多い。
4-15	話がまとまらない	ない	妻の話では昔から話下手で話の内容がわかりにくいことが多いという。
4-15	話がまとまらない	ない	単語程度しか話せず会話はほとんどできない。
4-15	話がまとまらない	ときどきある	月に2, 3回幻覚が見えて興奮すると、質問に対して全く無関係な話が続くことがある。
4-15	話がまとまらない	ある	自分の思っていることを話しているが、次々と話が変わるため何を言いたいのか家族にはほとんど毎回通じない。

項目		チェック	特記事項文例
5-1	薬の内服	介助されていない	介助なく自己管理している。時々飲み忘れがあるが、不適切とまでは言えない。
5-1	薬の内服	一部介助	【薬の分包・薬の用意・飲む量の指示、水の準備 等】を介助者がしている。
5-1	薬の内服	一部介助	適切介助：【独居の為 等】介助されていないが（週・日〇回）飲み忘れがある。物忘れが見られており、【服薬の指示・薬と水を手渡す 等】介助が適切。
5-1	薬の内服	一部介助	想定：内服がなく、薬剤が処方された場合を想定すると、物忘れがあり、服薬の指示が必要と判断。
5-1	薬の内服	全介助	介助者が【薬を口に入れている・食事に混ぜて飲ませている 等】
5-1	薬の内服	全介助	介助者が経管栄養（胃ろう含）のチューブから内服薬を注入している。
5-1	薬の内服	全介助	想定：点滴で薬剤を入れており、内服がないので想定すると、口に入れる必要がある。
5-2	金銭の管理	介助されていない	【歩行困難な為 等】、銀行での出入金は家族に依頼しているが、管理は全て本人が行っている。
5-2	金銭の管理	一部介助	全体の金銭は家族が管理し、小遣い程度の小額のみ自己管理している。
5-2	金銭の管理	一部介助	金銭は本人が管理しているが、介助者が【通帳の残高を・支払い時には 等】確認している。
5-2	金銭の管理	全介助	金銭の管理は介助者が行い、本人は金銭を【扱うことはない・持っていない】
5-2	金銭の管理	全介助	介助者が管理している。本人は小銭程度を持っているが、【収支を把握していない。・使う機会はない。】
5-3	日常の意思決定	特別な場合を除いてできる	日常の慣れた事は自己決定できるが、ケアプランの作成、治療方針等には介助者の支援を要する。
5-3	日常の意思決定	日常的に困難	日常の慣れた事でも、ほとんど意思決定できないが、【見たいテレビ番組、献立、着る服の選択 等】を決定することがある。
5-3	日常の意思決定	日常的に困難	【食べる物や飲み物に関して 等】、二者選択程度はできる。
5-3	日常の意思決定	全介助	【意思決定が全くできない。・意思決定ができるかどうかわからない。】
5-4	集団参加ができない	ない	【意識障害・寝たきり 等】で集団活動の機会がない。
5-4	集団参加ができない	ときどきある	施設内のレク活動中、【大声で騒ぐ・勝手にその場を離れてしまう 等】ため、個別対応することが、この1か月に1～3回あった。
5-4	集団参加ができない	ある	施設内のレク活動中、【大声で騒ぐ・勝手にその場を離れてしまう 等】ため、個別対応することが、この1か月では週〇回あった。
5-5	買い物	介助されていない	本人が宅配サービスの注文をしている。
5-5	買い物	介助されていない	週3回本人が買い、週1回重い物等を介助者が買う。頻度で「介助されていない」選択。
5-5	買い物	見守り等	家族からメモをもらい、本人が買い物をする。
5-5	買い物	見守り等	本人は【認知症で同じ物を買ってしまう為 等】介助者が買う物の指示をし、本人が陳列棚の品物を取り、支払いをしている。

項目		チェック	特記事項文例
5-5	買い物	見守り等	適切介助：【独居の為 等】本人が買い物をするが、【同じ物ばかり買ってしまう・必要ない物を買ってしまう為 等】買う物の指示をする介助が適切。
5-5	買い物	一部介助	本人が買う物を依頼し、介助者に行って来てもらう。
5-5	買い物	一部介助	介助者と買い物に行き、本人が商品を選び、介助者が【棚から商品を取る・支払い】をする。
5-5	買い物	全介助	食材・日用品は介助者が見繕って買う。
5-5	買い物	全介助	【施設・病院】入所（院）中の為、食材・日用品は施設、家族が買う。
5-5	買い物	全介助	週1回は本人が買い物をするが、週3回は介助者が見繕って買ってくる。頻回で「全介助」を選択。
5-6	簡単な調理	介助されていない	炊飯は発生しておらず、レンジでご飯、惣菜の温めを本人が行っている。
5-6	簡単な調理	介助されていない	炊飯は毎日1回介助者が行う。本人は1日3回レンジで温めをしており、頻度で「介助されていない」選択。
5-6	簡単な調理	介助されていない	経管栄養で流動食を常温で注入している。
5-6	簡単な調理	見守り等	本人が炊飯・温めを行うそばで、介助者が【指示・確認・声掛け】をしている。
5-6	簡単な調理	一部介助	炊飯は本人が米をとぎ、水加減が分からないので介助者が水を入れて、スイッチを押す。
5-6	簡単な調理	一部介助	本人がレンジで温めをするが、物を運べないので介助者が食品を入れ、取り出しを行う。
5-6	簡単な調理	全介助	炊飯・温めは介助者が行う。
5-6	簡単な調理	全介助	炊飯を毎日1回介助者が行っている。本人は週〇回くらいレンジで温めを行う。頻度で「全介助」選択。
5-6	簡単な調理	全介助	経管栄養（胃ろう含）で、介助者が流動食を温めて注入している。